

教育改革

——質の高い学生を育成し、強い競争力の基礎を構築する

人類は誕生後、絶えず学習し続けるものである。家庭・学校・社会における学習を通し、社会で生存し発展するに足る知識と技術・能力を身につけ、自分が具える特性を十分に発揮することができる。こうした学習は生活と結びつき、土地と結びつき、共同生活を営む人々と結びつかなければならない。

「国家」は国民の福祉のために存在するもので、教育権は国民の基本的権利であることから、国家には質の高い教育内容と施設を提供する義務があり、公平・正義な方法で教育資源を分配し、自由で多元化された刷新的な教育環境を発展させていかなければならない。

本シンクタンクは、以下の諸点を教育政策における核心的価値及び追求すべき目標と主張する。

(一) 「人」を本位とする学習権の実現

人類は誕生後、絶えず学習し続けるものである。教育の第一目標は、学習者あらゆる人がこの世界で唯一無二の存在であると感じさせ、家庭・学校・社会における学習を通し、社会で生存し発展するに足る知識と技術・能力を身につけ、自分が具える特性を十分に発揮することができるようサポートすることにある。

いわゆる学習権は、児童が教育を受けて学習することを指し、学習を通し成長する一つの権利である。言い換えれば、これは人権の基礎が生存権にあると考えるもので、生存するために、子供は必ずや将来の発展性を具えねばならず、また、こうした発展は学習権によって充実されなければならない。ゆえに、子供時代に十分な学習権

を享受すれば、「人」としての基本的人権が保障されることになる。ここから、学習権はその他の人権と同じく基本的人権の一つであり、同時に将来の生存権・幸福追求権・参政権などの権利を保障する基礎であることが分かる。

(二) 「台湾」を主体とする教育システム及び内容の推進

台湾の教育システムは、当然ながら台湾を主体とし、台湾の歴史・地理・文化を主とすべきである。同時に、台湾主体の教育を推進する際には、原住民文化の継承や主体性を引き継ぐべく、原住民教育を強化すべきで、原住民の学生は自身の文化に対する認知を通して、自己アイデンティティを高めることができるであろう。台湾主体の教育においては、台湾の各エスニックグループの文化をカリキュラムに盛り込み、各エスニックグループの学生に対して様々な教学を通じて多元的な文化教育を行い、相互理解を深め、それぞれのエスニックグループの異なる文化や言語を楽しみ、尊重できるように導くべきで、そうしてこそエスニックグループ間に尊重や思いやりが生まれ、社会の調和のとれた発展を増進することができるであろう。さらに、台湾主体の教育には、台湾の各郷土言語及び母国語の学習も盛り込むべきである。

(三) 教育権の十分な保障を着実なものとする

教育を一つの人権としてとらえるかに関わらず、馬政権下の教育権に対する尊重は不十分で、むしろ後退している状況も見ら

れるが、教育権の十分な保障は一つの重要な価値・目標である。よって、民主主義・法治・人権の精神を教育システムや教材の中で着実なものとし、国民の素質を高めて、民主主義システムを確保すべきである。更に、台湾の特殊な歴史的背景からすれば、教育の発展及び教育内容は、移行期の正義や世代間正義の追及をも重視すべきである。

(四) 均等な教育の機会の創造

当面の総体的な社会構造はM型化に発展し、富む者はますます富み、貧しき者はますます貧しくなるが、国家の教育資源の分配は、基本的に社会正義の原則に見合っていない。将来的には、児童数に応じて補助を出す対象家庭の所得範囲を拡大し、社会福祉及び労政資源を統合し、経済的弱者にある各学習段階の子供に対し、寮費免除や住宅手当を提供したり、無利子の教育ローン貸付や返済期間延長などの措置を採って、いわゆる学資ローンに苦しむ者をなくすべく、公平・正義な教育環境を構築すべきである。

(五) 教育システムの公共化を着実なものとする

政府は、公共化やコミュニティー化の就学前教育を含む教育にかかる主要な責任を負い、若い夫婦の育児負担を軽減して、少子化を緩和し出産を奨励すべきである。また、質の高い公立の学校教育を主に提供しつつも、マーケットの需要に応えるべく、私立の学校が自由で特色を持って発展ができる余地も残しておかねばならない。

(六) 自由にして多元的で刷新した教育の発展

教育は刷新を実験する様々な可能性を提供すべきで、ゆえに、カリキュラム内容には異なる性別・階級・エスニックグループ・グループ・年齢・出身などの生活・経験・世界を反映し、学生が多元的な文化から、差異を尊重し、再認識できる能力を養えるようにすべきである。同時に、生活と結びつき、創意をかきたて、知的好奇心を刺激し、アイデンティティーや情を示し、体験学習を行えるカリキュラムへと向かうべきである。

台湾は民主主義国家であり、この民主主義国家の存続は国民が共に擁護していけるかにかかっている。ゆえに、民主主義・法治・人権の精神を教育システムや教材の中で着実なものとし、国民の素質を高めて、民主主義システムを確保すべきである。カリキュラム発展の実務面においては、学生の社会的正義に対する批判的な思考や様々な社会的弱者(文化的弱者、エスニックグループの弱者、性別的弱者、階級的弱者、地域情勢、学習形態による弱者等)にある学生への思いやりを育てるには留まらない。

当面の台湾はグローバル化のチャレンジに直面するが、天然資源が豊富でない台湾にとっては、質の高い人材資源が将来の重要な競争力の基礎となる。故に、新しい時代の台湾の教育はこの重責を負い、台湾人が21世紀に大きく躍進できるよう導いていかねばならない!**BT**